

「葦」第39号発刊によせて

教育委員長 善 家 トシコ

平成19年度は、教育目標「看護実践能力の向上に向けて、個人のキャリア発達を支援する」を基に、教育計画・運営を実施しました。また平成17年度から取り組んできたクリニカルラダーについて、6月5日、6月8日の2日間にわたり看護職全体を対象としたプレゼンテーションを実施しました。メンバー研修、リーダー研修Ⅲにおいてもクリニカルラダーとリンクした研修を実施しました。師長研修会でも「人事考課」実施に際しては、クリニカルラダーを基にした自己目標管理が必須であることを共通理解しました。またクリニカルラダーⅠ・Ⅱにおいて、所属の特殊性を組み込んだ臨床実践能力到達レベル（案）を主任会全体で作業を進めてもらいました。クリニカルラダーⅢの臨床実践能力到達レベル（案）は教育委員会のメンバーで検討を進めました。

厚生労働省の通知を受け、日本看護協会は「看護師による静脈注射の実施範囲に関する指針」を示しました。それを受けて、教育委員会では「静脈注射に必要な薬理学」研修を12月4日、12月13日の2回にわたって実施し多数の参加を得ました。

新人教育では、3ヶ月目研修でコミュニケーションのとり方、6ヶ月目研修では多重課題を設定したロールプレイングで自己の看護の振り返りをしてもらいました。また「自己の看護過程を振り返る」を目的としてケースレポート発表を各所属で実施、発表レポートを提出してもらい、新人の成長を確認できました。

呼吸療法勉強会は2年目を向かえ、60名を上回る参加者に「終了証」を発行し努力をたたえました。勉強会が目的とする「患者にとって安全且つ安楽な呼吸療法を提供する」ための知識・技術がそれぞれの所属で活用されることを期待します。

今後の研修計画を検討するに当たり、①組織がどのような看護師を育てたいか、②組織が希望する看護職を育成するにはどんな教育が必要か（組織の理念達成）を検討しながら計画立案していきたいと考えます。またプログラム作成に際しては、ラダーにリンクした研修企画書作成→研修計画立案→評価のプロセスを大切にして企画・実施して「継続教育」を強化していきたいと考えています。

一年間を通して、教育委員会活動にご協力いただきました皆様方に深く感謝いたします。